

取材先	下関東部の文化財を見直す会		
企画名	下関夜話会 林芙美子生誕120年 記念企画 「林芙美子の生涯と作品」		
取材日	2023年10月18日(水) 天候[晴れ] [10:00~11:30]	取材地	亀山八幡宮儀式殿

レポート

下関東部の文化財を見直す会は、郷土の歴史と文化財を再認識し、下関東部の活性化を図ることを目的に活動されていて、その活動の1つが「下関夜話会」の開催です。

「ようこそ！関門が織りなす歴史と文化を語り継ぐ下関夜話会へ」をキャッチコピーに、この夜話会は、昭和56年発足以来毎月(コロナ禍を除く)開催され、今回で通算432回目となりました。

今回は、林芙美子生誕120年 記念企画で「林芙美子の生涯と作品」と題して、北九州市立文学館 学芸員の小野 恵氏よりお話を伺うことができました。

小野氏は、林芙美子の年譜をもとに、その時々々の芙美子の様子が分かるような写真や資料等をスライドで紹介しながら、芙美子自身のエピソードはもちろん、芙美子に関わる人たちの人物像や関係性まで丁寧に紹介されました。

配付資料でも、当時女性が作家になることがどれほど大変であったかということや「書くことが生きること」「庶民の生活を書かすにはいられない」という芙美子の作家としての在り方など、芙美子の人となり分かる資料が巧みに抜粋されていて、参加者も小野氏の話に引き込まれていました。

また、去年、作家の柚木麻子さんが彼女の視点で芙美子のアンソロジーを刊行し、いま若い人にも林芙美子が注目されているというお話がありました。

私も今日のお話を伺って、林芙美子の随筆集を読みたいと思います。

なお、次回の夜話会は11月16日(木)「吉田松陰にとって旅とは？」で、講師は萩市立博物館・明倫学舎 総括学芸員 道迫真吾氏です。興味のある方は是非参加してみてください。

状況写真



▲ 講師の小野 恵氏

司会の
井手事務局長 ▶



▲
1930年
『放浪記』(改造社)
刊行、ベストセラーと
なる。同年『続放浪
記』も刊行。

雲風 苦花私あ生漂波生雲風
ももしのもなき渺間きもも
光吹きいよたてとのて光吹
るくこのくもるた鷗みるく
ななどち知知るゞのるなな
りりのはっっ幸よご幸りり
みみてて福ひと福
多じるるは くは
かか
れく
どて

林
芙
美
子

林 芙美子 (1903-1951)

